

12 史跡・文化財

12.1 調査

1) 調査内容

調査内容を表 10.12.1-1 に示す。

表 10.12.1-1 調査項目

調査内容	
埋蔵文化財の分布状況	・埋蔵文化財包蔵地の範囲、現況等 ・埋蔵文化財の種類、価値等
その他の予測・評価に必要な事項	・土地利用

2) 調査方法

(1) 既存資料調査

既存資料調査は、表 10.12.1-2 に示す資料について収集、整理した。

表 10.4.1-2 調査方法（既存資料調査）

調査項目	収集資料
埋蔵文化財の分布状況 ・埋蔵文化財包蔵地の範囲、現況等 ・埋蔵文化財の種類、価値等	下記資料を調査し、埋蔵文化財の分布状況を把握する。 ・「埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ」（埼玉県教育局）
その他の関連事項 ・周辺の土地利用	現地踏査、地形図、土地利用現況図、住宅地図等の最新資料の収集等により把握した。

(2) 現地踏査

現地踏査は、伊奈町教育委員会へ埋蔵文化財の分布状況等の聞き取りにより行った。
調査範囲は対象事業実施区域内とした。

3) 調査結果

(1) 埋蔵文化財の分布状況

調査結果は、「第3章、2.7、(2) 埋蔵文化財」(p.3-123 参照)に示すとおりである。

対象事業実施区域内には、2つの埋蔵文化財包蔵地（縄文時代や古墳時代の集落跡、貝塚）が存在する。

なお、令和6年2月7日及び2月9日に伊奈町教育委員会が対象事業実施区域において幅広く埋蔵文化財を調査したが、遺構等の新たな発見はなかった。

(2) その他の関連事項（周辺の土地利用）

周辺の土地利用に関する調査は、「第3章、1.2 土地利用の状況」(p.3-4 参照)に示すとおりである。

12.2 予測

1) 施設の存在

(1) 予測内容

施設の存在に伴う埋蔵文化財包蔵地の変化の程度を予測した。

(2) 予測方法等

① 予測方法

埋蔵文化財の既存資料調査及び現地踏査結果と、事業計画の内容の重ね合わせにより、定性的に予測した。

② 予測地域及び予測地点

予測地点は対象事業実施区域とした。

③ 予測対象時期等

工事が完了した時期とした。

(3) 予測結果

対象事業実施区域内は全面改変となるため、対象事業実施区域内に存在する埋蔵文化財包蔵地は全て改変される。ただし、令和6年2月7日及び2月9日に伊奈町教育委員会が対象事業実施区域において幅広く埋蔵文化財を調査したが、遺構等の新たな発見はなかった。

工事においては、埋蔵文化財包蔵地外においても慎重に施工し、万一埋蔵文化財が確認された場合は、埼玉県及び伊奈町教育委員会と連携しつつ、文化財の保護上必要な措置を講じるものとする。

12.3 評価

1) 評価手法

評価は、史跡・文化財への影響が事業者の実行可能な範囲で回避又は低減されているものであるか否について見解を明らかにした。

2) 環境の保全のための措置

史跡・文化財への影響を低減させるため、環境の保全のための措置として以下の事項を実施する。

(1) 存在・供用時

表 10.12.3-2 環境の保全のための措置(存在・供用時)

影響要因	項目	措置の内容	措置の区分		
			予測条件として設定	低減に係る保全措置	その他の保全措置
施設の存在	施工時の配慮	・埋蔵文化財が確認された場合は、埼玉県及び伊奈町教育委員会と連携しつつ、文化財の保護上必要な措置を講じる。	○	○	
		・埋蔵文化財包蔵地外においても慎重に施工する。		○	

3) 評価の結果

(1) 存在・供用時

① 施設の存在

ア 回避・低減の観点

工事においては、埋蔵文化財包蔵地外においても慎重に施工し、万一埋蔵文化財が確認された場合は、埼玉県及び伊奈町教育委員会と連携しつつ、文化財の保護上必要な措置を講じる。したがって、史跡・文化財への影響は事業者の実行可能な範囲で回避又は低減が図られているものと評価する。